

特集

働きかける高齢者 ～健康、仲間、趣味、地域、仕事づくりから～

人生の高齢期をどのように過ごすのが幸せかと問われたとき、生き方も価値観も多様な中で、どれだけの人が、多様な選択肢を用意できるだろうか。健康に恵まれ、趣味も楽しめ、仲間とともに地域に生きる。そのためには、生きがい・働きがい・社会参加とともに、一定の収入を得る仕事づくりも重要な要素だ。「生涯現役社会」が叫ばれ、高齢者を包み込んだ就労とまちづくりを進めようとするとき、「協同労働」のしくみが活用されだしている。そして私たちはいま、「コミュニティ就労」を進めようとしている。

高齢社会の到来と地域

日本の人口の推移は、急速に高齢化している。すでに、2012年から65歳を迎えた団塊の世代が、職場から地域へと移行してきている。2011年からの人口減少が、高齢化を加速させており、2060年には高齢化率が、約40%にもなると推計されている。

こうした状況は、一方では、一般に言われているように社会保障負担の増加が懸念されながら、他方では、生涯現役社会が言われるなか、知識や経験が豊富で有能な人材が、地域で活躍できる可能性も含まれている。健康維持や介護予防に留意しながら、意欲と能力に溢れた人材の「居場所」と「出番」が用意できれば、地域の活性化に資する絶好の機会とも考えられる。高齢者にふさわしい就労環境の整備と地域ネットワークの醸成が求められる。

高齢者の支え合いと世代間連帯の重要性

人口構成の高齢化一少子・高齢化に伴う人口構造は、生産年齢人口の低下により、支えての負担も懸念される。現在では2.6人が1人の高齢者を支えている構造が、2060年には1.2人になる。こうなると、高齢者は、単に、支えられる存在ではいられない。高齢者同士が互いに支え合う仕組みと活動が必要になる。

同時に、若者世代の負担感も大きくなり、年金問題など世代間の対立状況が顕在化し、若者対高齢者の対立構図が生まれやすい。ともすればそれが、社会不安にまで発展することも考えねばならない。就労と社会参加を通した世代間連帯は、これからの重要なテーマになる。

求められる地域での就労の場

高齢者自身の就労意欲は、相当に高い。65歳以上まで働きたい人は約9割、70歳以上まで働きたい人は約7割と言われている。収入よりも生きがいや社会参加のために働きたいとか、経験を活かしてボランティアとして働きたいという声がある一方で、「収入がほしい」「生活の糧を得るため」など、経済的理由から就労を希望する高齢者が相当に多いのも現実だ。こうしたことからか、定年後も、引

き続き従前の会社や関連会社で仕事を確保している場合が多い。高齢者が、地域に戻って、地域課題の解決のために活躍することが期待されながら、定年後に、地域のシルバー人材センターを活用して仕事を確保する人が少ないのも実態のようだ。「企業人」から「地域人」にスムーズに移行するためには、就労や社会参加を支援する地域ネットワークの仕組みづくりが重要である。シルバー人材センター、社会福祉協議会、地域包括支援センター、NPO等の連携が強調されている。こうした中で、新たな就労の場づくりも求められている。

注目される協同労働

ワーカーズ・コープやワーカーズ・コレクティブなどの、新しい働き方が注目されている。

広島市では、「協同労働」について次のように紹介している。「働く意欲のある人々が集い、みんなで出資して経営に参画し、人と地域に役立つ仕事に取り組む労働形態を、「協同労働」といいます。協同労働は、地域が抱える課題を地域資源を生かしながらビジネス的手法によって解決しようとする働き方の一つです。「出資」「経営」「労働」の三位一体で構成され、出資を通じて働く人も責任を分かち合うことから、働く人の主体性・成長が生まれるとされ、近年、世界中の多くの地域で取り組まれています。」こうして、広島市では、「協同労働プラットフォーム事業(モデル事業)」を、平成26年度から展開している。

コミュニティ就労の推進こそ

地域での就労を考えたとき、居場所と役割があるのはもちろん、さらに一層、地域貢献や持続可能な地域づくりを追求する社会性のある就労と、困難を抱えた人々も含め、誰でもが働けるユニバーサルで包摂性があり、学びと成長の場としての就労をめざしたい。私たちはそうした、労働の本質的な機能を備え、人づくりとまちづくりが結合した就労を「コミュニティ就労」と位置付けている。高齢者ばかりでなく、多世代と一緒に働く世代間連帯のある就労の場でもある。

2015年には、改正介護保険制度が施行され、生活困窮者支援制度が始まる。高齢者が、生涯現役で元気に活躍できるためには、介護予防は重要なテーマである。同時に、困窮状態におちいらない就労の場も不可欠である。公的訓練・就労事業制度の創設ともあいまっての、コミュニティ就労の推進が、今こそ求められている。

今回の特集、とりわけ座談会では、元気高齢者自らが介護予防サポーターとして活躍している「いきいきプラザ」の活動、高齢者が協同労働のしくみによってまちづくりに取り組む「協同労働プラットフォーム事業(広島市)」、仕事おこし・福祉・生きがいつくりに総合的に取組む高齢協の活動、などを紹介していただきながら、幸せな高齢期のあり方と結んだ、暮らし・就労・まちづくり・世代間連帯などを考える。

(特集編集部)

※特集の写真提供「労協新聞」